

<霊的備え>

私は切に 主を待ち望んだ。主は私に耳を傾け 助けを求める叫びを聞いてくださった。
滅びの穴から 泥沼から 主は私を引き上げてくださった。
私の足を巖に立たせ 私の歩みを確かにされた。 (詩篇 40:1-2)

<理解の手引き>

聖書の神は、個人の生涯の中に、そして世界の歴史の中に生きて働いたもう神です。神はアブラム（アブラハム）に対して「この地をあなたの所有として与える」ことを約束されました。しかし、アブラム（アブラハム）は神にそのしるしを求めたのでした。何故なら、この時点で、アブラム（アブラハム）はまだ土地をひとつも手にしていなかったからです。

主がアブラム（アブラハム）に命じた契約の方法は、当時オリエントで行われていた契約の儀式でした。それは命懸けの儀式でした。契約の当事者が、この裂かれた動物の間を通り、もし契約に違反したならば、この動物のようにされることをよしとするものでした。

やがて日が沈み、暗闇になった時、煙のたつかまど、燃えているたいまつが切り裂かれた物の間を通り過ぎました。これは、主の臨在を象徴しており、主が契約を結ばれた事を保証するものでした。

<考えてみよう>

(観察) 主がアブラム（アブラハム）に与えると約束された土地は、どこからどこまででしたか？

(解釈) 何故、アブラム（アブラハム）は、その契約のしるしを、主に求めたのでしょうか？

(適用) 今日の時代、主が私達に与えてくださった契約は、どのようなものですか？

(エレミヤ 31:31-34、ルカ 22:19-20、Ⅱコリント 5:17-21 参)

<心に残ったみことばや気づき>

<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)